

弘化三年十月

右橋懸り

家持善四郎印

同所海邊大工町

名主八左衛門印

同所平野町

甚四郎印

本所

御掛り様

〔新大橋附手當舟一件書留〕新大橋附手當船之儀ニ付申上候書付

本所見廻

町年寄江御斷

新大橋、文化度十組間屋共引受中、橋附手當船壹艘出來、文政二卯年、右引受御差止相成候砌、船ハ橋番人江引渡相成、舟年貢水主雇上小修復共、其時々橋付御入用之内江組入、橋番人掛り名主共
ら町年寄江申立受取、大破相成候節は、私共江申立、伺之上修復申付候儀ニ御座候處、右船年來相
立朽腐強御用立不申、新規取建候而は、御入用も相嵩候間極印は切川船方役所江相納、追而相應
之賣船有之候へば御買上ゲニ仕、其節書替相願、尤船出來候迄、御用之節は、雇船ニ而差支無之、貲
銀之義は前同様受取度旨、橋番人掛名主共申立候間承届申候、此段町年寄江被仰渡可被下候、
朱書一永代橋之儀、十組引受中、橋付手當船壹艘御座候處、大破罷成、十ヶ年程以前、極印は川船方江
相納、其以來雇船ニ而御差支之儀無之候間、本文之通申上候儀ニ御座候、

以上